

【ポスター発表】

多機関協働による包括的支援体制事業の構築に向けた事例検討手法に関する研究
ーケアマネジメントを通じたスーパービジョン・資源開発のアクションリサーチー

○ 静岡県立大学短期大学部 鈴木俊文 (007520)

キーワード：主任介護支援専門員 包括的支援体制事業 スーパービジョン

1. 研究目的

本研究は、多機関協働による包括的支援体制の構築に向けた事業モデルのひとつとして、A県B市によるケアマネジメントを通じた事例検討会のモデル開発に取り組むものである。具体的には、介護問題に限定しない複合的な課題を抱える者等に対する支援システムの構築を目指し、①多問題を扱う事例検討会議及びその手法の検討と、②事例検討（会議運営）に必要な主任介護支援専門員及びケアマネジャーの役割の具体化、③それに必要な能力開発を支える機能・しくみ化の検討である。

国は、少子高齢化や核家族化の進行、人口減少、地域のつながりの希薄化など地域社会を取り巻く環境の変化によって福祉ニーズが多様化・複雑化していることを背景に、新たな時代に対応した福祉の提供ビジョンとして「多職種の協働による包括的支援体制構築事業（平成28年度）」を打ち出した。本研究は、これに着手すべくA県B市における当該ビジョンのモデル事業をアクションリサーチとしてモデル化する。モデル化にあたっては、とりわけ家族や地域における多問題抽出の切り口として、ケアマネジメントで扱う事例が有効であると考えた。また、その分析には課題発生の変因のみならず、支援の促進・阻害変因等の影響をプロセスとして構造化する質的分析の手法が有効であると考えた。本研究では、こうした事例検討を含む支援システムの構築に対し、主任介護支援専門員や介護支援専門員によるアウトリーチを含む地域課題の抽出や多問題に対応できる分析スキルの獲得が必要不可欠であると考え、ケアマネジメントを通じた事例検討会を、①介護問題に限定しない複合的な課題を扱う分析・検討の場にする、②そのために必要な（多機関協働による包括的支援に必要な）主任介護支援専門員及び介護支援専門員の役割を具体化すること、③それに必要な能力開発のしくみ化を地域レベルで整備することを目指した。本発表では、これらの取り組みを一体的なアクションリサーチとしてモデル化したものを報告し、今後の具体的な展開の可能性と評価視点について考察する。

2. 研究の視点および方法

本研究では、事例検討手法やそれを行う場を軸としたアクションリサーチのモデル化を検討するために、先行研究を概観することから開始した。その結果を基に、介護問題に限定しない複合的な課題を扱う分析・検討の場にするべく、①事例検討会で扱う事例の選定及び資料作成に係る主任介護支援専門員によるスーパービジョンの役割、②複合的課題の分析から資源評価の視点を導くための事例検討法について検討し、その考察を行った。

（1）事例検討手法を用いたアクションリサーチの検討（文献研究）

CiNii を活用し（キーワードに事例検討、アクションリサーチ）、事例検討手法によるアクションリサーチの論文を検索し、本研究に関連する8件を参考にした。その他、質的研究（調査）手法によるアクションリサーチに関する専門書を活用し、事例検討手法をアクションリサーチとしてモデル化するための枠組みを検討した。

（2）包括的支援体制事業の構築に向けたモデル化（目的・計画・評価視点の検討）

本研究の最終目的は事例検討のみならず、アウトリーチを含む地域課題の抽出や多問題に対応できる多機関協働による包括的支援体制事業の構築である。これを達成するためには、支援体制全体との関係で事例検討の位置づけ（目的・計画・評価視点）について検討することが必要である。これらの検討はA県B市の長寿福祉課、主任介護支援専門員計7名で組織化した検討チームで検討した。

3. 倫理的配慮

日本社会福祉学会の研究倫理指針を遵守し調査対象者・地域・団体等を匿名とした。本研究は事例検討手法の「アクションリサーチモデル」開発にかかわる調査・研究であり、その対象は文献研究が中心である。よって、個人情報にかかわる特定の事例及び実践の既存データを活用した調査・分析は行っていない。

4. 研究結果

文献研究の結果、事例検討を用いたアクションリサーチモデルは、いずれも事例検討の場における「現状の把握から分析」を力点に、アクションの計画と実行・評価へとつなげるサイクルをベースにしていることが明らかになった。一方で、研究視点としては、研究者が直接対象に関与することから、①グループダイナミクスを生み出す視点、②問題にアプローチするための実践研究の視点、③そのためのトレーニングモデルの計画・実行・評価の視点、④これらのプロセスにかかわるチーム・ビルディングとプロセスコンサルテーションの視点等をもつことも示唆された。

以上の示唆を得て、本研究では上記4つの研究視点をアクションリサーチに採用しモデル化をはかった。とりわけ実践研究の視点においては、主任介護支援専門員の主たる役割である介護支援専門員に対するスーパービジョン及びケアマネジメントを通じた地域のしくみづくりと連動するべく、主任介護支援専門員更新研修の内容を実践へと連動させた。

5. 考察

本研究でモデル化したアクションリサーチの評価視点は次の4点である。①介護問題に限定しない複合的課題を検討するためのグループダイナミクスの効果、②実践研究としての枠組みと多職種による展開、③主任ケアマネジャーを中心に組織化したスーパーバイザーによるスーパービジョンの効果、④多機関協働によるチーム・ビルディングとプロセスコンサルテーションの効果。

今後は、上記の評価視点をもってアクションリサーチを展開すると共に、事例検討会を通じたB市内の支援体制の再構築・調整等のネットワーク化や、事例検討内容を集積した地域課題の類型化及びこれを根拠としたスクリーニングシートの開発についても検討していくことが必要である。